

# 第65回愛知学院大学モーニングセミナー

## 「お化けの民俗学」

— 猛暑を涼しく過ごしましょう! —

愛知学院大学 文学部

日本文化学科

教授 蛸島 直



2011年8月9日

# お化けとは一体何なのでしょう？。

昭和初期、民俗学者の柳田國男は、お化けを「妖怪」と同義で用い、これを「幽霊」と区別しています。とはいえ、現在の「お化け」は「妖怪」とともに「幽霊」を含み、むしろ後者の比重が大きいようです。今回のセミナーでは、「お化け」たちがどのように成立し、どのように語られ、描かれたのかを民俗学の立場から考えます。





お化け屋敷小屋

# 今日の予定

- 1) 2つのミンゾク学：民俗学と民族学
- 2) 柳田國男によるオバケの研究
- 3) 民俗生物学とは？
- 4) 民俗生物学的にみた妖怪
- 5) 同一現象をめぐる多様な説明
- 6) 動植物の誤認：日野巖の視点
- 7) 空想による粉飾：日野巖の視点2
- 8) 見世物とオバケ
- 9) 土産物(いやげもの？)
- 10) オバケの錦絵
- 11) 虚言と誇張
- 12) 動物の観察の難しさ
- 13) 結論：妖怪像を成立させる諸要素



## <1>2つのミンソク学

民俗学(folklore): 自文化の民間伝承(folklore) の研究

民族学(ethnology) = 文化人類学(cultural anthropology):

主として異文化の比較研究

文化(culture)とは?



## <2-1>柳田國男によるオバケの研究

民俗学の強力なる推進者 柳田國男(1875-1962)

オバケ=妖怪≠幽霊

妖怪: 出現場所が固定。相手を選ばぬ。宵と暁の薄明り

幽霊: 出現場所不定。特定の相手に。丑みつ時

オバケ=妖怪=神が零落したもの。

例1)一つ目小僧: 人間とは異なる神の姿。

例2)キュウリは河童の好物とされる。キュウリを含め瓜類は水神をはじめとする夏場の祭礼の供物でもあった。民俗学が、河童の起原を水神に求める根拠の一つ。



**浅草のかっぱ寺(曹源寺)に奉納されたキュウリ**



柳田國男の『一目小僧その他』(昭和9年)と『妖怪談義』(昭和31年)

## 〈4〉 民俗生物学 (folk-biology) とは



## 〈4〉民俗生物学的にみた妖怪

民俗生物学の立場からは妖怪と実在の生物との境界は必ずしも明確とはならない。現在の一般常識としてカワウソは動物図鑑に、河童は民俗学事典に掲載されるが、ある時代の多くの地域の民衆たちの知識の中に存在した民俗動物学図鑑はカワウソと並んで河童を収録し、むしろ後者に多くの頁を割いていたものと考えられる。



鳥山石燕  
「画図百鬼夜行」より  
「獺」（かわうそ）



## 民俗学からみた妖怪



ユーラシアカワウソ (*Lutra lutra*) 台北市立動物園にて撮影。



人魚

聖徳太子此石寺村を  
日暮より通り多くバ蘆原のうら  
より面を人より下ハ魚多るもの  
出て我前生ふ殺生を好む

我生天中受勝妙樂と唱へて  
聖君の慈力をめりてや物利天  
生世ハ六拜謝奉 速ニ飛去ま

# 人魚の錦絵

豊国三代 広重二代  
観音靈験記  
西国順礼第三十二番  
近江観音寺



### 日野巖の著書

- 日野 巖 2006a(1926)『動物妖怪譚』<上> 中公文庫BIBLIO
- 日野 巖 2006b(1926)『動物妖怪譚』<下> 中公文庫BIBLIO
- 日野 巖 2006c(1978)『植物怪異伝説新考』<上> 中公文庫BIBLIO
- 日野 巖 2006d(1978)『植物怪異伝説新考』<下> 中公文庫BIBLI

変態見世物史

全

「変態見世物史」表紙

「変態見世物史」藤沢衛彦  
昭和2年 文藝資料研究會

不可思議な動植物は見世物の対象として多くの日本人が好奇の目で見つめていた。

小説家で民俗学者でもあった藤沢衛彦(ふじわら もいひこ: 1885-1967)は、多数の文献と民間伝承の渉獵により『変態見世物史』を著わしている。





**鬼の角(オニノツノガイ) / 天狗の爪(サメの歯)**



**ヘイケガニ(標本としてブツリカ)**



**ハイケガニ**



**お菊虫(ジャコウアゲハの蛹)**



**芳年**

**「新形三十六怪撰  
皿やしきお菊の霊」  
明治22～25年**



**周延**

**「東錦晝夜競  
平知盛 / 霊」  
明治19年**